

ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校
令和2年10月号

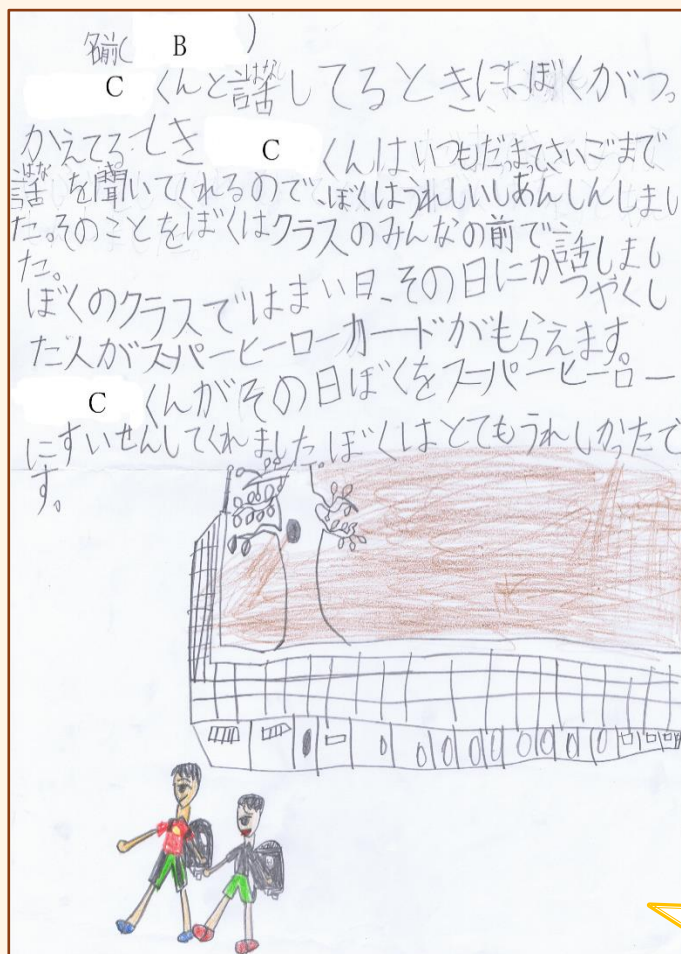
前回に続いて、吃音のお話です。今まで「子どもの吃音のからかいやいじめを防ぐことは、まわりにいる大人の責任」と思いながら環境調整に取り組んでいましたが、子どもの素直な心から生まれた言動が、優しい環境を作り出すことを学んだエピソードです。



2年
Bくん

長い休校中吃音の症状が重くなったことをきっかけに通級を始めたばかりのB君は、まだ吃音についていろいろ話し合ったり、作戦会議をしたりしたことはほとんどありません。しかし、クラスで自ら吃音のことを話すという、友情たっぷりのほのぼのエピソードがあったのでご紹介します。

クラスで担任の先生が、人それぞれの個性や得意不得意なことについてお話をしました。するとB君は自ら挙手をして「C君と話している時、ぼくがつかかってもC君は最後まで話を聞いてくれるので嬉しかったです。」とみんなの前で発表しました。そんな勇気を認め、B君をその日のスーパーヒーローに推薦したC君。お互い相手を思いやる気持ちがいっぱい、優しさに包まれる素敵なお話でした。



B君のお母さまからもコメントをいただきました。



学校生活や習い事など、息子が吃音について他のお友達や先生に疑問に思われていないか、からかわれたりしていないかなど、常に心のどこかで心配はしていました。

でも、ある日学校で、自分は上手く話せない事、それをいつも黙って最後まで聞いてくれるお友達に対して感謝しているという事を、クラスの皆の前で本人の口から話したという事を聞きました。まさか自分の息子が、皆の前で吃音について話すなんて驚きましたが、本人にとっては実は何のためらいもなく、ただ純粋に嬉しかった事を話ただけという感覚のようで、我が子ながら感心、感動してしまいました。息子の言動によって、そのお友達もまた嬉しかったようで、とても照れ臭そうに笑っていたそうです。

母である私が思っている以上に、子どもは子どもなりに考え、成長しているのだと痛感しましたし、過剰に心配する必要もないのだと子どもに教えられました。勿論、助けを求められればそれ以上に応えてあげたいですし、常に近くで見守っていきたいと思います。

私自身も知識も乏しく、未熟ではありますが、親子で共に成長していけたらと思っています。

吃音について在籍学級で話をする場合、今までは「マネをしない、からかわない、いじめてはいけない」というように、「～しない」が多かったように思います。しかし、今回のB君のエピソードを聞いて、こんなにじんわりと温かく胸に響き、効果的なお願いの方法があるのだという事に気づかされました。きっとB君のクラスでは、つかかっても最後まで聞いてくれるお友達が増えたことだろうと思います。

「子どもの吃音 ママ応援 BOOK」の著者、医学博士の菊池良和先生が著書「吃音のリスクマネジメント」の中で

「自分で吃音のことを伝えられるとよいです。
そして、守ってくれる友達がいれば、もっとよいです」



と書いています。お友達パワーで、学校生活を安心して楽しく過ごせることでしょう。吃音の正しい知識を知ってもらって、守ってくれる友達を増やしていきたいですね。

「みんなの前で吃音のことを話すことに対して、不安はなかったか？」とB君に聞いたところ、「みんなに言えば、つかかっちゃうことも分かってくれると思ったから、心配はなかった」という答えでした。



随時受け付けています！

白岡市教育委員会
0480-92-1111（代表）
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017（直通）